

戦争法案廃案 良心にかけ



戦争法案廃案への思いを込めマイクを握る宗教者ら（8日、名古屋市中区）

平和憲法あったから活動できる

愛知宗教者9条の会は8日晨、雨降る中、名古屋市栄の繁華街で戦争法案の廃案を求めるリレートークを行いました。仏教、キリスト教、天理教から僧侶、牧師、神父ら20人以上が集い、来週中にも強行採決がいわれる緊迫した情勢の中、それぞれ思いを語りました。

「緊急の呼びかけで5人ぐらいの参加かと思っていた」と話す事務局代表の石川勇吉・真宗大谷派僧侶は「命の尊厳に関わる危機的状況です。10年前に発足した会の決意が踏みにじられようとしています。良心にかけて廃案に」と呼びかけました。

名古屋キリスト教協議会議長の松浦剛・曰本イエス・キリスト教団名古屋教会牧師は「戦後70年、宗教活動ができたのは平和憲法があったから。日常生

活を根底から覆す事態に、お経や祈りをあげることと専念していられません」と厲ても立ってもいられない思いを語りました。

「平和を武器によってつくるなんて非現実的」「マイクで話すのは初めてだが、憲法も生活もむちゃくちゃにされたくない」「第2次大戦で銃口を突き付けられたこともある。戦争はむごたらしいもの」「イエス様も怒るときには怒った。『為政者よ』と。皆さんも一緒に怒って」などとスピーチは1時間続きました。

自転車を引きながら注目していた女性は「戦争経験者です。戦争できる国にさせないで。政治家の人はいかないで済みますもんね」。じっと話を聞いていた女性(50)は「ネガティブな声をかけて通りすぎた人もいますが、そういう人にも(廃案に向け)話をしていきたい」と語っていました。